

2023年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名：自然でトノウ会

活動名：リアルでつながる喜びを。焚き火を通したデジタルデトックス。

★ 団体紹介（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

【設立の経緯】

私たち自然でトノウ会は、2022年11月に結成された団体です。各会員が実施した自然教育活動の経験を踏まえ、より体系的かつ効果的に活動を進めるために団体を設立しました。

【構成メンバー】

立ち上げ当初は20代中心とした団体でしたが、活動を通して30代～70代のメンバーが参画するようになりました。イベント企画をする人、イベントに参加する人などそれぞれの関りはまちまちですが、2024年2月時点で11名が所属しています。各自の得意なことを活かし活動しています。

【活動目的】

里山や里海といった自然を利活用した活動を通して、人々の居場所やつながり、生きがいの創出に寄与することを目的としています。

【活動内容】

現在は、3つの部門に分かれて活動しています。

①木育部門＝自然へ触れて貰う普及啓発活動

山に入り自分たちで清掃活動（伐倒、下草刈り、枝拾いなど）を実施。清掃中に集めた自然素材を活かし、ワークショップを考案。イベント出店時に子供や大人たちへ自然素材に触れて貰う機会を創出。

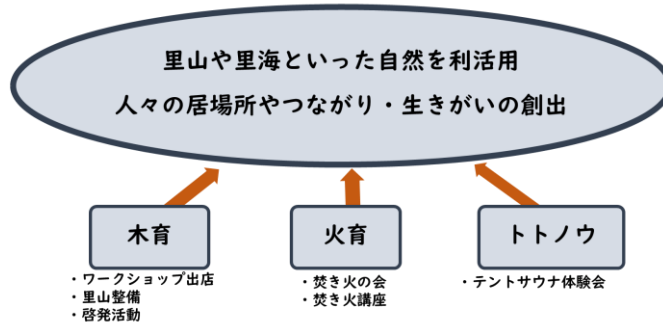
②火育部門

焚き火を通して人々が集い、対話する場の創出。

③トノウ部門

言葉の通り、私たち自身がトノウための活動。主にテントサウナを実施。

自然でトノウ会とは？



自分たちがトノウだけでなく、山を含めた自然環境も一緒にトノウことを目指して、様々な活動を実施している、成長中の団体です。イベント企画の実施運営、各地域での里山清掃、啓発普及活動のためのマルシェへ出店等を行っています。

★ 活動内容（実施日、場所、目的、内容、参加人数等）

【背景】

近年の急速なデジタルテクノロジーの発達と新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインを活用した新しい働き方や生活様式が浸透しています。また、SNS でのつながりづくりも増えてきました。そのため、デジタルデバイスと人との距離が近くなり、直接的な対話が減少傾向にあります。



DIGITAL DETOX
J A P A N

デジタルテクノロジーの発達などの影響により
オンラインを活用した新しい働き方や生活様式の浸透



デジタルデバイスを活用した連絡・つながりづくり
が当たり前となりつつある

【目的及び方法】

このことを踏まえデジタル疲れを起こしている人達に、焚き火を通してリアルでつながれる場を創出することを目的に、焚き火を実施した。

新しい働き方や生活様式で
ちょっぴり疲れた人へ。

焚き火を通して、デジタルデバイスを少しわきに置いて
目の前の火を眺めながらゆったりとした時間を過ごす。
そんなひと時を提供したい。

【実施概要】

当初計画通り4回実施。内、1回は地域側からの依頼があり地域のイベントで火おこし及び焚き火を囲むイベントを実施した。

焚き火を眺める会

○当初計画

日程：年**4回**（7月、8月、10月、11月）

募集：各回5人～20人。延べ50名。

狙い：参加者同士での会話が生まれ、つながる機会とする
デジタルデバイスについての悩みや利用状況を話し合う

○実際

・年**4回**実施（7月、9月、10月、11月）

・**55名＋不特定多数**

・毎回**大好評！**

スマホが無いことで人に聞くことが多かった等の**嬉しい意見多数**

【1回目】2023年7月15日（土） 焚き火×デジタルデトックス

★メンバーの協力もあり大学生が多く参加

★デジタルデトックスによる効果を感じる声が多かった

- ・スマホからではなく、人に聞くことが多かったと思います。
- ・「時間が気になる」「写真を撮りたい」と最初感じていましたが、だんだん気にならなくなりました。デジタルな時間や写真を撮るという行為にも実は縛られていたんだなと思いました。時間を気にせずのんびりすごすことや、写真で記録するのではなく今をゆっくり楽しむことも大切なんだなと思いました。
- ・暇にならなければスマホなどに気を取られないことが分かった
- ・時間が過ぎていくことに対して、「もったいない」という感覚が失せたこと
- ・楽しいことをしている時はスマホ触らなくても違和感はない

1回目：焚き火×デジタルデトックス

日時：2023年7月15日（土）10:00～13:00

場所：憩いの森公園 デイキャンプ場

参加者：27名（初回で大盛況♪）



【2回目】2023年9月9日（土）焚き火飯×デジタルデトックス

- ★メンバーの得意な料理を掛け合わせた焚き火飯
- ★シンプルだけど焚き火だと美味しい
- ★焚き火飯を通して参加者同士の交流が生まれた

2回目：焚き火飯×デジタルデトックス

日時：2023年9月9日（土）10:00～14:00

場所：憩いの森公園 デイキャンプ場

参加者：9名（少人数だが初めてのグルメテーマで大満足！）



【3回目】2023年10月1日(日) 焚き火講座

- ★地域のイベントから依頼があり焚き火講座を実施
- ★小学生～60代の方が焚き火を楽しんだ
- ★火おこした時の達成感を味わっていた

3回目：焚き火講座

日時：2023年10月1日(日) 10:00～16:00

場所：湖畔の里 福富道の駅

参加者：不特定多数



※アクアフエスタin福富との連携イベント

【4回目】2023年11月18日(日) トトノウ感謝祭

- ★天気が悪く、必然的にデジタルデトックスとなった
- ★寒いからこそ火の重要性に気づく
- ★スマホから離れて自然の中で楽しむことの重要性が伝わった

4回目：トトノウ感謝祭

日時：2023年11月18日(日) 10:30～15:00

場所：憩いの森公園 デイキャンプ場

参加者：19名 (初雪で感動の締めくくり!)



※I5seeds種子蓮郷（地域の清掃ボランティア）との連携

★ **実施に伴う効果** (どのような社会貢献ができたか。自らの成長は。)

● **ゆっくり過ごす時間となった**

スマホを事前に預かることで、イベント開催中にスマホを見れない環境にした。そのため、普段だとスマホの中に逃げてしまうだろう時間を他の時間に充てることになったと思う。焚き火であったり、目の前の人との会話であったり、薪割りだったり。それぞれが思い思いの時間を過ごすことで、忙しい現代社会の日々の癒しの時間となったと思う。

● **メンバーのやりたいことの実現**

メンバーの得意な料理を活かした焚き火飯企画を実施できたことは大きい。焚き火飯の考案や材料の購入など小さくてもチャレンジし、PDCA を回すことができた。また、参加者からも好評であり、一緒にご飯を作ったり食べたりすることで、参加者同士の距離が近づくことが分かった。

● **団体認知度向上**

焚き火を通年実施することで周囲から「焚き火をしている団体」のイメージが定着しつつある。このことにより、地域団体から「火おこしのやり方を教えて貰いたい」、「焚き火ブースを出展してみないか」という依頼や相談を貰うことができた。焚き火を通じて、多くの人に「癒しの時間」と「人と人がつながる場」を今後も継続して続けられる環境ができたことは大きかった。

● **多世代のナナメの関係性構築**

対象者を特に絞らず、1人での参加や親子、大学生グループなど様々な属性の方が参加した。意図せず、大学生が子ども達の面倒を見たり、子ども同士が仲良く遊んだり、といった光景があった。普段出会わない人たちが同じ場にいることで、面白い化学反応が起き、縦・ナナメの関係性ができた。

★ **苦勞した点、今後の課題、発展の方向性など**

【課題】

● **運営側の巻き込み**

社会人も多く、事前の準備をほぼ代表一人で行っていた。参加者が楽しんでもらうことに優先を置き効率よく準備を進めた一方で、運営側との話し合いが欠けていた。

● **写真撮影の課題**

デジタルデトックスとしたため、写真撮影ができなかった。運営側だけ 1 台用意していたが、参加者が自由に撮影できないことにストレスを感じる人もいた。今回は、スマホ自体を回収することに意義を置いていたが、機内モードは良いとする、などの検討が必要だと感じた。

【今後の展望】

● **多世代が楽しめる活動**

焚き火を通して多世代が楽しめる場を作ることができた。こども・ワカモノ・お父さん・お母さんが楽しい！と思えるコンテンツの開発を団体の理念のもと行っていきたい。

● **他団体との連携**

自団体には強い部分(イベント実行力)、弱い部分(広報力など)があります。他団体も同様だと思うため、それぞれの強みや弱みをかけ合わせながら、活動を継続していきたい。

★ 若者×ツナグバへの提言（改善につながるヒント、要望）

この度は、支援いただきありがとうございました。若ツナを通して、大人数を対象としたイベントを複数回実施することができました。つまり、より多くの人達にリアルでつながる喜びを届けることができたといっても過言ではないと思います。この制度自体に改善点はありませんが、定例会についてはもう少し工夫いただけると嬉しいです。採択団体同士がつながるといよりは、事務局と話している雰囲気が多かったです。事前に聞いてみたいことを事務局に提出し、お互いにアドバイスをし合ったり、悩みを共有する時間になればより良い時間になると思いました。今後も若者の活動の支援を継続いただければ幸いです。